

<参考>

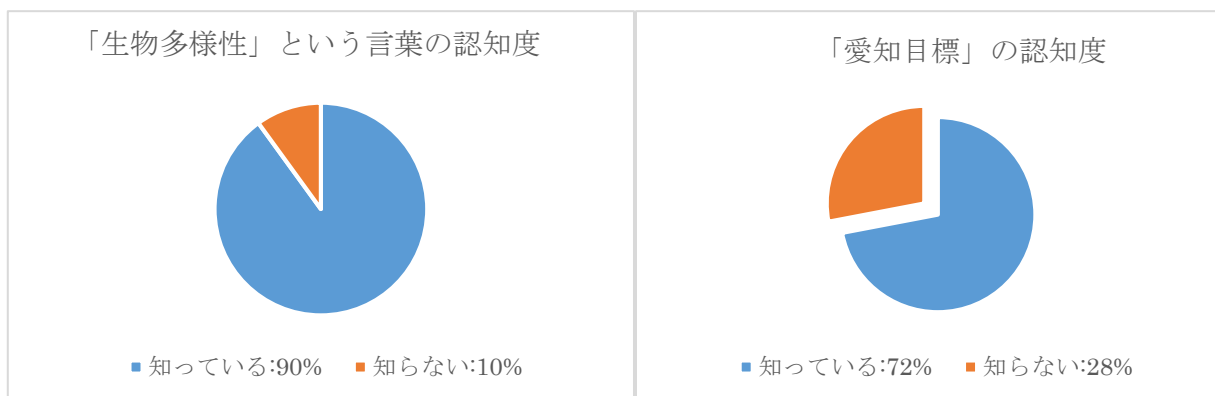
日本企業における「生物多様性の主流化」の進捗状況
「生物多様性に関するアンケート<2018年度調査結果>〔抜粋〕」

2019年2月
経団連自然保護協議会

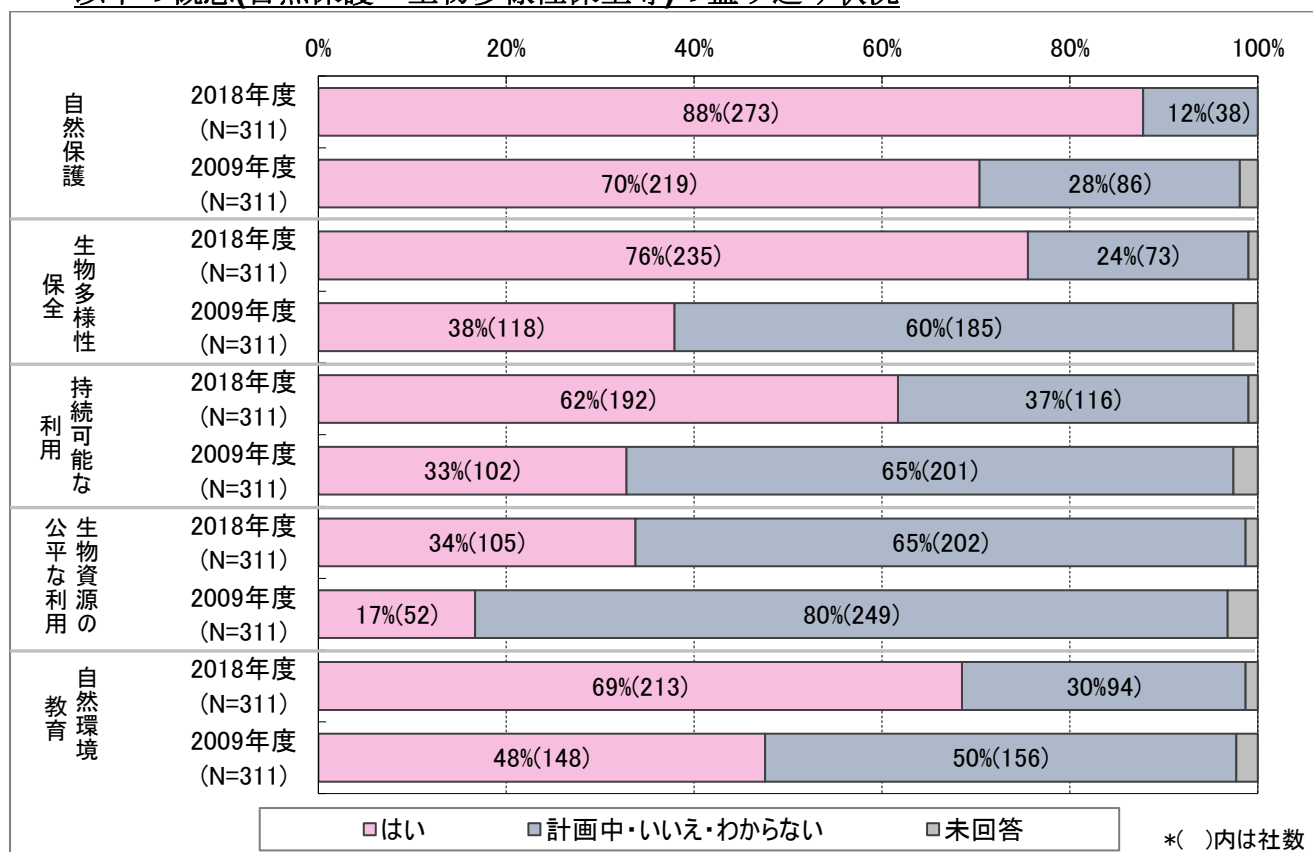
1. 日本企業の経営層による認知度(2018年)

(1) 「生物多様性」の認知度:90%(279社)

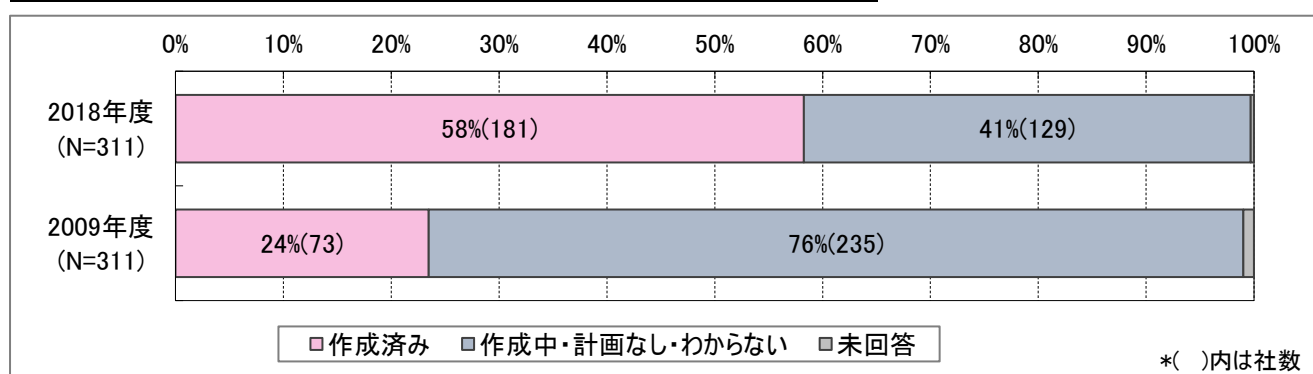
(2) 「愛知目標」の認知度:72%(224社)



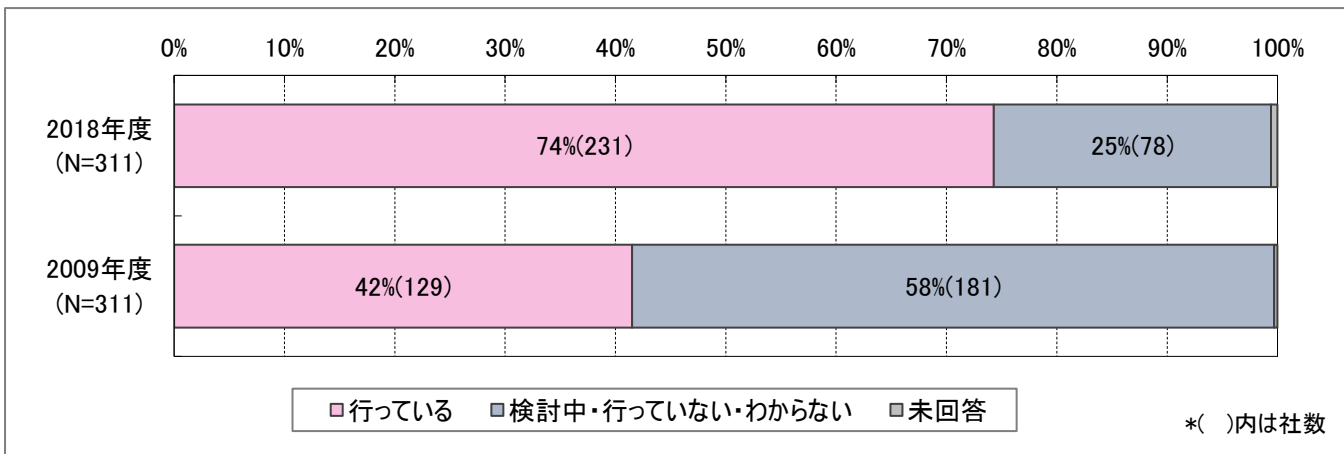
2. 日本企業の経営理念や経営方針・環境方針等における、
以下の概念(自然保護・生物多様性保全等)の盛り込み状況



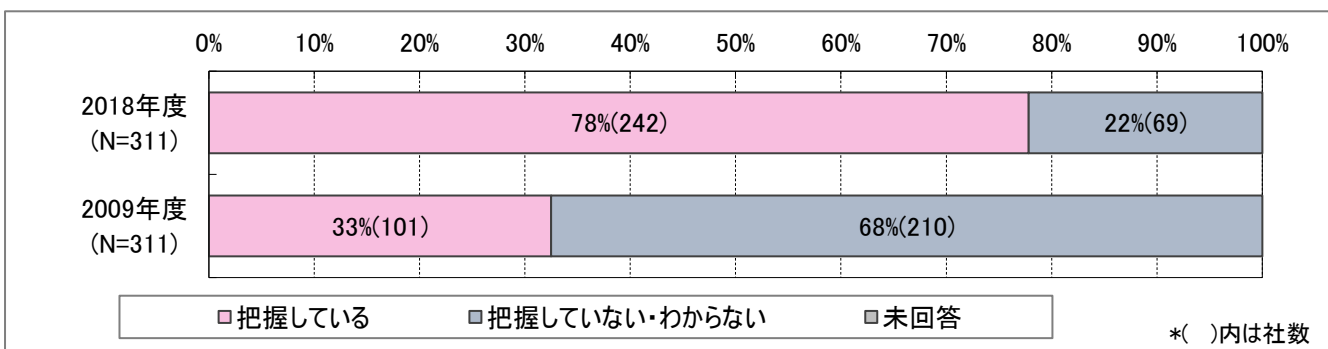
3. 生物多様性に関する行動指針やガイドラインの作成状況



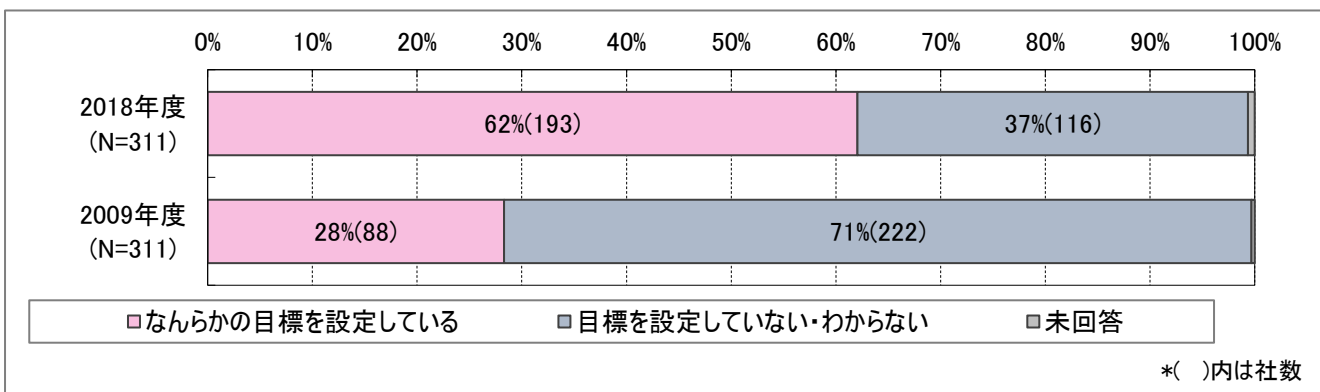
4. 生物多様性に関する情報開示の状況(環境報告書やホームページ等を通じた開示)



5. 自社(自グループの)事業活動と生物多様性の関係についての把握状況



6. 生物多様性に関する自社の取組みに関する目標設定の状況



※経団連「生物多様性に関するアンケート」について

経団連および経団連自然保護協議会では、2011年度以降、毎年度、会員企業等に対して、生物多様性に関するアンケートを行い、企業の取組み状況等について調査している。2018年度調査では、愛知目標採択以前(2009年度)と現在(2018年度)の取組み状況も調査。本紙はその調査結果の抜粋である。

以上

<参考>

経団連生物多様性宣言・行動指針〔改定版〕 生物多様性民間参画パートナーシップ・行動指針〔改定版〕

(2018年10月16日改定)

1.【経営者の責務】持続可能な社会の実現に向け、自然の営みと事業活動とが調和した経営を志す

- 1-1 経営トップは、生物多様性及び自然の営みの重要性を認識し、生物多様性と自らの事業活動等との関係把握に努め、企業経営を行う。
- 1-2 経営トップは、生物多様性に関する行動の重要性を認識し、SDGs（持続可能な開発目標）のさまざまなゴールの達成に貢献するよう、ビジョンを明確にし、リーダーシップを発揮する。
- 1-3 経営トップは、生物多様性への取組みに関し、消費者・顧客や投資家をはじめ、幅広いステークホルダーに対し、適時適切な情報発信や対話を行う。

2.【グローバルの視点】生物多様性の危機に対して、グローバルな視点を持って行動する

- 2-1 事業計画の立案及び遂行にあたって、グループ企業全体として、関係する国内外の生態系や地域社会に及ぼす影響などについて把握し、生物多様性に関する具体的な取組みを行うとともに、サプライチェーンにおいても関係性の把握や行動を促すよう努める。
- 2-2 遺伝資源の利用と利益の配分にあたっては、「名古屋議定書」の国内措置（ABS 指針）を踏まえるとともに、遺伝資源を取得する際には、提供国が定める法令を遵守する。

3.【自主的取組み】生物多様性に資する行動に自発的かつ着実に取り組む

- 3-1 自らの事業活動による生物多様性への影響の把握・分析・評価を行ったうえで、原材料調達、設計・製造・組立、輸送、製品販売・サービス提供、廃棄・リサイクルなどの各段階において、生物多様性保全と持続可能な利用に貢献する。
- 3-2 生物多様性の保全や持続的利用に寄与する技術の開発・利活用・普及に努める。
- 3-3 生物多様性保全に資する取組みは現地での実践活動が基本である。生物多様性の経済的評価に基づく取引や代償（オフセット）手段の利用をせざるを得ない場合には、地域のステークホルダーとの対話を重視するとともにその実効性を見極めるなど、安易な手法に陥らないよう留意する。
- 3-4 自らの事業活動とは関係性が見出しにくい場合でも、基金等への寄付や従業員等の活動支援など、社会的価値の創造につながる活動、社会貢献活動として、自主的かつ積極的に取り組み、SDGs に貢献する。

4.【環境統合型経営】環境統合型経営を推進する

- 4-1 低炭素社会の実現に向けて、地球規模での温室効果ガス排出削減に自主的かつ積極的に取り組む。
- 4-2 循環型社会の形成に向けて、廃棄物等の適正処理を徹底するとともに、自主的かつ積極的に、3R（リデュース、リユース、リサイクル）に取り組む。

5.【自然資本を活かした地域の創生】自然への畏敬の念を持ち、自然資本を活用した地域の創生に貢献する

- 5-1 生態系が有する機能を活かした防災・減災対策等への理解を深め、安全・安心な地域づくりに貢献するよう努める。
- 5-2 地域固有の自然資本が有する機能を活用し、地域の創生に貢献する。
- 5-3 都市や一部の里地里山に代表される、既に自然の恵みが損なわれている国内外の地域において事業活動を行う場合には、生物多様性の回復を促すよう努める。

6.【パートナーシップ】国内外の関係組織と連携・協働する

- 6-1 国内外のNGO、教育・研究機関、地方自治体、事業者等との間で、コミュニケーションの拡充やプロジェクト等の連携・協働に努める。

7.【環境教育・人材育成】生物多様性を育む社会づくりに向け、環境教育・人材育成に率先して取り組む

- 7-1 従業員を対象とする自然環境教育を、地域社会やNGO等と連携して、積極的に実施する。
- 7-2 地域住民をはじめとするステークホルダーを対象とした環境教育を実施するとともに、学校教育やNGO等が行う教育活動に協力することにより、生物多様性を育む意識を広く社会全体に普及する。

以上

生物多様性に関するアンケート
 - 自然の恵みと事業活動との関係調査 -
 調査票<2018年度>

ご回答締切日：
 2018年10月1日(締切厳守)

2018年9月3日
 一般社団法人 日本経済団体連合会
 経団連自然保護協議会
 生物多様性民間参画パートナーシップ事務局

2010年に名古屋で開催されたCOP-10において「愛知目標」が定められ、2010年から2020年に向けて、「生物多様性の主流化」に取り組むこととされています。そこで、企業における生物多様性の取り組み状況等について毎年度アンケートを行い、企業の取り組み状況等を把握し、日本経済界の取り組みを国内外にアピールしていくこととしました。また、調査結果を公表することによって、先進的な取り組み事例等を参考にして、各企業における今後の活動を充実していく一助としていただきたいと思います。また、充分に取り組んでいないなどのご事情がございましたら、是非ともアンケートへの協力をお願い致します。

なお、本年度は、日本経済界の約8年間にわたる取り組み成果を把握し、本年11月のCOP-14などで、国内外にアピールしていく観点から、現時点(2018年)の取り組み状況に加え、2009年(愛知目標策定前)の取り組み状況の設問がございます。2009年時点の取り組みは、わかる範囲でご回答ください。

回答項目は4種類あります。
下線付き青字は参考情報のリンク付きです。

背景色の違い
自由記入(文字、数字など)項目
単数回答(✓は1つ)項目
複数回答(✓はいくつでも可)項目
プルダウンメニュー項目

I. 回答事業者に関する基礎情報

貴社名		
ご担当部署名		
ご担当者氏名		
連絡先	TEL	
	FAX	
	e-mail	

以下の各項目について、1つずつ該当するものを選んで下さい。

(1) 主な事業内容

【製造業】

- (a) 食料品
- (b) 繊維製品、紙・パルプ、化学
- (c) 医薬品
- (d) 石油・石炭製品
- (e) ゴム製品、ガラス・土石製品
- (f) 鉄鋼、非鉄金属、金属製品
- (g) 機械、電気機器、輸送用機器、精密機器
- (h) その他製品

【非製造業】

- (i) 農林・水産業
- (j) 鉱業
- (k) 建設業
- (l) 電気・ガス業
- (m) 陸運・海運・空運業、倉庫・運輸関連業
- (n) 情報・通信業
- (o) 卸売・小売業
- (p) 銀行・証券・保険業、その他金融業
- (q) 不動産業
- (r) その他サービス業等

(2)従業員数

- | | |
|-------------------------------------|---|
| <input type="radio"/> (a) 99人以下 | <input type="radio"/> (e) 1,000人～2,999人 |
| <input type="radio"/> (b) 100人～299人 | <input type="radio"/> (f) 3,000人～4,999人 |
| <input type="radio"/> (c) 300人～499人 | <input type="radio"/> (g) 5,000人以上 |
| <input type="radio"/> (d) 500人～999人 | |

(3)資本金

- | | |
|--|---|
| <input type="radio"/> (a) 50百万円未満 | <input type="radio"/> (c) 100百万円以上、300百万円未満 |
| <input type="radio"/> (b) 50百万円以上、100百万円未満 | <input type="radio"/> (d) 300百万円以上 |

(4)貴社の会員登録状況(あてはまるもの全てに✓印を選んで下さい)

- (a) 一般社団法人 日本経済団体連合会
 (b) 経団連自然保護協議会
 (c) 生物多様性民間参画パートナーシップ

ご回答いただいた内容につきましては、集計した上で公表させていただきます(個別のご回答内容を公表することは一切ございません。但し[問16]を除きます)。また、ご回答内容・個人情報などにつきましては、経団連の個人情報保護規程などに基づき、厳重に管理致します。

2009年時点の取り組み状況は、わかる範囲でご記入いただくことで結構です。

2009年時点の取り組み状況の把握が難しい場合には「わからない」を選択してください。

また、合併等で組織が変わっている場合には、代表的な組織等の取り組み状況について、ご回答ください。

(お問い合わせ先)

経団連自然保護協議会 事務局 担当：木賊(トクサ)、斉藤、吉田
〒100-8188 東京都千代田区大手町1-3-2
T e l : 03-6741-0981 Fax : 03-6741-0982
e-Mail : kncf@keidanren.or.jp

II. 認知度

【問1】

「生物多様性」という言葉について、(1)貴社の経営層と(2)大多数の従業員のそれぞれの認知度はいかがですか。もっともあてはまると思われるものを、ひとつずつ選んで下さい。

- | | | |
|-----------------------|-----------------------|-------------------------|
| (1)経営層 | (2)大多数の従業員 | |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | (a)言葉の意味を知っている |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | (b)意味は知らないが、言葉は聞いたことがある |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | (c)聞いたことが無い |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | (d)わからない |

(生物多様性とは)

【問2】

貴社の経営層は「愛知目標」をご存知ですか。

- (a)知っている (b)知らない

(愛知目標とは)

III. 貴社の経営・事業活動との関係

【問3】

- (1) 現在(2018年)、貴社の経営理念もしくは経営方針、環境方針等において、以下の①～⑤の概念が含まれていますか。または盛り込む計画はありますか。各項目について以下(a)～(c)から一つずつ選んでください。

(a)盛り込まれている (b)盛り込まれていないが、計画がある
(c)盛り込まれておらず、計画も無い

- (2) 2009年当時の貴社の経営理念、経営方針、環境方針等において、以下の①～⑤の概念は盛り込まれていましたか。各項目について(a) (b)から一つずつ選んでください。

(a)はい (b)いいえ・2009年時点のことはわからない

(1)2018年			(2)2009年		概念の種類
(a)	(b)	(c)	(a)	(b)	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①自然保護
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	②生物多様性保全
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	③生物資源の持続可能な利用
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	④生物資源の利用にあたっての公平・公正性の確保
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	⑤自然環境教育

【問4】

- (1) 現在(2018年)、貴社独自の「生物多様性宣言」や生物多様性に関する「行動指針」「ガイドライン」等が作成されていますか。以下の(a)～(c)から1つを選んでください。

- (2) 2009年において、貴社独自の「生物多様性宣言」や生物多様性に関する「行動指針」「ガイドライン」等は作成されていましたか。以下の(a)または(c)から一つを選んでください。

(1)2018年 (2)2009年

- | | | |
|-----------------------|-----------------------|----------------------------|
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | (a)作成済み |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | (b)作成中または、計画あり |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | (c)計画なし・(2009年時点のことは)わからない |

(3) (1) (2)において(a)と回答された場合に、その名称をご記入下さい。

2018年	
2009年	

(4) (1) (2)において(a) (b)を選択した場合、それは生物多様性に関する
単独文書でしょうか、それともCSRや環境全般に関する文書の一部でしょうか、
①現在(2018年)と②2009年当時について(a) (b) (c)から各々選んで下さい。

①2018年 ②2009年

- (a)生物多様性に関する独立した宣言、指針、ガイドラインとして作成
 (b)CSRや環境問題全般に関する文書の一部として作成
 (c)2009年時点のことはわからない

【問5】

(1)現在(2018年)、(2)2009年時点において、環境報告書やホームページ等において、
生物多様性に関する情報公開を行っていますか(いましたか)。

以下(a)~(c)から1つ選んで下さい。

(1)2018年 (2)2009年

- (a)行っている
 (b)行っていないが、行うことを検討している
 (c)行っていない・(2009年時点のことは)わからない

【問6】

(1) 現在(2018年)、事業活動が生物多様性に与える影響や事業活動が依存している
自然の恵み(生態系サービス)等、事業活動と生物多様性の関係についてどのように
把握していますか。当てはまるもの全てに✓印を選んで下さい。

- (a)全般的に定量的に把握している
 (b)一部定量的に把握している
 (c)全般的に定性的に把握している
 (d)一部定性的に把握している
 (e)定量・定性を問わず、把握していない

(2) 2009年当時、事業活動が生物多様性に与える影響や事業活動が依存している
自然の恵み(生態系サービス)等、事業活動と生物多様性の関係について定量・定性
を問わず把握していましたか。

- (a)把握していた (b)把握していなかった・わからない

【問7】

(1) 貴社では、現在(2018年)、生物多様性に関する取り組みを実施するにあたって、目標を設定していますか。以下(a)～(e)から1つを選んで下さい。

- (a) 定性目標と定量目標の両方を設定している
- (b) 定量目標はないが、定性目標を設定している
- (c) 定性目標はないが、定量目標を設定している
- (d) 目標を設定していないが、設定に向けて検討している
- (e) 目標を設定しておらず、設定する予定もない

(2) 貴社では2009年当時、生物多様性に関する取り組みを実施するにあたって、なんらかの目標を設定していましたか。

- (a) なんらかの目標を設定していた
- (b) 目標を設定していない・わからない

【問8】

【問7】(1)において、「(a) 定性目標と定量目標の両方を設定している」又は「(b) 定量目標はないが定性目標を設定している」、或いは「(c) 定性目標はないが定量目標を設定している」と回答した企業にお伺い致します。生物多様性に関する具体的な目標について、あてはまるもの全てに✓印を選んで下さい。

2018年 <目標の事例>

- ① 植林面積あるいは植林本数、森林保全面積の増加
- ② 会社案内、カタログ、名刺における森林認証紙の活用推進
- ③ 内外セミナー実施等による「生物多様性」の主流化の促進
- ④ 生物多様性に関する事業所毎の取り組み状況の把握
- ⑤ 生物多様性に独自に取り組む事業所数の増加
- ⑥ NGO、自治体、学校等、地域の組織との協働機会の増加
- ⑦ 事業所による「生物多様性の本箱」の寄贈推進 [\(生物多様性の本箱とは\)](#)
- ⑧ 従業員による「生物多様性」の言葉の認識度の向上 [\(言葉の認識度とは\)](#)
- ⑨ UNDB-JのMY行動宣言の従業員向け実施推進 [\(MY行動宣言とは\)](#)
- ⑩ 従業員の家庭における漁業認証[MSC、ASC]等製品の購入促進
- ⑪ 従業員ボランティアの参加機会の増加
- ⑫ その他、具体的に(下の行に)

→

【問9】

【問7】(1)において、「(a) 定性目標と定量目標の両方を設定している」又は「(b) 定量目標はないが定性目標を設定している」と回答した企業にお伺いいたします。設定した定性目標が達成したかどうかの判断基準は何でしょうか。あてはまるもの全てに✓印を選んで下さい。

2018年 <判断基準の事例>

- ① 会議体(部内会議、タスクフォース等)で協議する
- ② 関係者にアンケート調査を実施する
- ③ 組織の責任者が判断する
- ④ 議論の記録(会議の議事録等)を残す[過去事例と比較する]
- ⑤ 議論の記録(付記された少数意見)を参照する[マイナス要素の改善状況]
- ⑥ 目標に関連して設定した指標を参考にする
- ⑦ 第三者(内部監査員等)意見を参考にする
- ⑧ 目標の達成手段の進捗を参考にする
- ⑨ その他、具体的に(下の行に)

→

【問10】

「生物多様性の経済的アプローチ」、「資源動員(資金投下)」についてお伺い致します。

- (1) 貴社では、現在(2018年)、「生物多様性の経済的アプローチ」、「資源動員(資金投下)」に関連して、以下のいずれかの活動または検討をしていましたか。

各項目毎に (a)活動中 (b)検討中 (c)未対応から選んで下さい。

- (2) 2009年当時の活動・検討状況はいかがでしたか。

各項目毎に (a)活動中 (b)検討中・未対応・わからないから選んで下さい。

(1)2018年			(2)2009年		概念の種類
(a)	(b)	(c)	(a)	(b)	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①自然資本[自然資本連合等]
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	②環境会計[環境省等]
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	③森林認証[FSC、PEFC、SGEC、公益的機能評価等]
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	④森林関連認証[RSPO、レインフォレストアライアンス等]
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	⑤漁業認証[MSC、ASC等]
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	⑥資金支援[財団、基金等]
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	⑦その他、具体的に(下の行に)
2018年					
2009年					

注：『自然資本』とは、金融資本・人的資本・社会資本と並んで『自然の恵み』もまた企業の持続的発展に不可欠な『資本』であり、その他の資本と同様、毀損せず使うだけでなく、収益の一部を還元してより豊かなものにして返す、という理念を言葉にしたものです。

- (3) 「生物多様性の経済的アプローチ」や「資源動員(資金投下)」に関連して、活動又は検討を行っている場合、その目的は何ですか。あてはまるもの全てに✓印を選んで下さい。

2018年

- ①製品・サービスの提供の付加価値を高めるため
- ②自然保護の経費の妥当性を検証するため
- ③開発等の事業計画(影響緩和コスト等)の企画・立案のため
- ④報告書/レポートでの情報公開のため
- ⑤ビジネスへの適用を評価するため
- ⑥将来の税制や取引制度への準備、適応、リスク対応等のため
- ⑦その他、具体的に(下の行に)

→

IV. 生物多様性の主流化

【問11】

生物多様性主流化の1つの方法として、ISO14001などの既存の環境マネジメントシステムへの統合が考えられます。貴社では、(1)現在(2018年)、(2)2009年当時において、どの様な環境マネジメントシステムを保有していますか(していましたか)。あてはまる環境マネジメントシステムの全てに✓印を選んで下さい。

(1)2018年 (2)2009年

- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | ①ISO14001：2015年版 |
| <input type="checkbox"/> | ②ISO14001：2004年版（2018年9月14日失効） |
| <input type="checkbox"/> | ③エコアクション21 |
| <input type="checkbox"/> | ④エコステージ |
| <input type="checkbox"/> | ⑤KES(京都環境マネジメント・スタンダード) |
| <input type="checkbox"/> | ⑥その他、具体的に(下の行に) |

2018年	
2009年	

【問12】

現在(2018年)、環境マネジメントシステムを保有している場合、どのように生物多様性に関する項目を取り入れていますか。保有している環境マネジメントシステムであてはまるもの全てに✓印を選んで下さい。

2018年

- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | ①生物多様性に関する項目は取り入れておらず、未検討である。 |
| <input type="checkbox"/> | ②生物多様性に関する項目は取り入れていないが、検討中である。 |
| <input type="checkbox"/> | ③環境方針に記述。(維持を意図する「配慮する」、「継続する」等の表現あり) |
| <input type="checkbox"/> | ④環境方針に記述。(改善を意図する「推進する」、「強化する」等の表現あり) |
| <input type="checkbox"/> | ⑤その他、具体的に(下の行に) |

→

--

【問13】

(1) 生物多様性主流化のもう1つの方法として、事業における生物多様性配慮の組み込みや関連技術開発等の例があげられます。現在(2018年)のこれらに対する取り組み状況について、以下(a)~(c)から1つ選んで下さい

2018年

- | | |
|-----------------------|---------------|
| <input type="radio"/> | (a) 既に実施している |
| <input type="radio"/> | (b) 検討・計画している |
| <input type="radio"/> | (c) 特になし |

(2) 前項(1)で(a)か(b)を選択した場合、具体的にどのような取り組みを実施、検討、計画されていますか。可能な範囲でご記入下さい。

--

【問14】

現在(2018年)、貴社で生物多様性の主流化を進めるうえで、阻害要因となっているものはありますか。あてはまるものすべてに✓印を選んで下さい。

2018年

- ①生物多様性は本業との関連性が低い
- ②生物多様性への配慮や活動が事業の利益に結びつきにくい
- ③生物多様性に関する目標・指標の設定、定量化・経済的評価が困難
- ④生物多様性に関する具体的な手段・施策の策定が困難
- ⑤生物多様性に関して、社会(顧客、サプライヤー等)の認知度や評価が低い
- ⑥自社・関係会社のトップ、経営層、スタッフ等の知識・経験、理解・認識が薄い
- ⑦自社(一般従業員等)の生物多様性に関する知識・経験、理解・認識が薄い
- ⑧阻害要因は無い
- ⑨その他、具体的に下の行にご記入下さい

→

V. 貴社の具体的活動と愛知目標

【問15】

貴社では、現在(2018年)、以下の活動を実施したり計画していますか。各項目について選択して下さい。
 (下表は企業の具体的な活動と愛知目標との関連について、整理したものです。
 貴社の活動と愛知目標との関連性を理解する際にご活用下さい。)

(参考) ・[愛知目標\(20の個別目標\)](#)

2018年			(a)実施中/(b)計画中/(c)未対応	
(a)	(b)	(c)	目標に関する活動例	愛知目標番号
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	企業報告書による情報開示	1,4
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	モニタリングデータの開示	19
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	海外法人、海外事業所を通じた活動	20
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	自社製品を活用した保全活動	20
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	グリーン調達(製品、サービスの提供)	4,5,6,7,8,14
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	事業活動の環境への影響評価とその結果に基づく活動	4,5,6,7,9,11,12,13
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	緑地作り、緑地の回廊的配置など生態系復元活動	5,15
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	マッチングギフトや売上げの一部寄附	20
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	従業員やその家族による保全活動(への協力)	20
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	関連技術開発	4,8,10,12,13
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	にじゅうまる宣言 (にじゅうまる宣言とは)	1,18,19
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	MY行動宣言	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	省エネ等環境対応商品の採用・販売	10
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	認証商品や環境対応商品の利用、採用、営業	4,5,6,7,14
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	環境配慮型地域産業振興(水産、農林)への貢献	6,7
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	土地利用に関する設計・工法の改善、モニタリング	4,5,11,12,19
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	社有地管理に於ける配慮や企業の森に於ける保全活動	4,5,9,11,12,13,15
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	NGO等が行う調査・保全プロジェクトへの支援・協力	15,18,19
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	専門家やNGOと連携した生息調査	9
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	従業員環境教育	1,4
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	環境等に関する資格試験受験推奨	1,4
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	学校と連携した環境教育や環境をテーマとした啓発活動	1,4

【問16】

現在(2018年)、貴社が行っている具体的な活動のうち、特にアピールしたい取り組みや、力を入れている取り組みが御座いましたらご記入下さい。(4活動以内、各々200文字程度)。その際、それぞれの取り組みが愛知目標や経団連生物多様性宣言「行動指針」のどの項目に最も関連しているかについてお知らせ下さい。

加えて、貴社が想定されているSDGsの該当番号(複数該当すると思われる場合には複数の番号)をご記入ください。

〔 本項目については、ご記入いただいた情報を好事例集等の事例として企業名を含めて公表させていただく予定です。あらかじめご了解いただけますようお願い申し上げます。〕

具体的な取り組み	愛知目標	行動指針	参考資料 (URLなど)	該当するSDGs番号
【例】A途上国での植林(現地自治体・NGOとの協力)	目標5	5-3		4,13,15,17



【問17】

経団連や経団連自然保護協議会、「生物多様性民間参画パートナーシップ」の活動等について、ご意見・ご要望がありましたらご記入下さい。

アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。